

宝物はすぐそばに

校内研通信

第39号

R7.12.15

発行者:校内研担当 仲村智

笑顔でいると“世界一幸せ”だと言われます～クオッカより～

12月15日(月)1校時、1年3組にて平良聖子先生が英語の授業を公開しました。本時のねらいは、本文の内容を理解し音読した後、本部に関する問題(質問)を作成することです。導入では、帯活動であろう Greeting と Song を実践した後、本時のメイン活動である本文の Reading へとスムーズな流れで入っていきます。内容はオーストラリアにいる野生動物や建物などの有名なものを紹介するもので、本文読解では、it や he、they などの代名詞が何を指しているかを丁寧に指導し全体で確認するという RS を意識した授業実践だなと思いました。1年生らしく分からないことや難しい表現があったときには、『先生！これ何て言えばいい？』とあちこちから質問攻めにあい、それを机間指導しながら問い返しなどのやりとりのなかで更なる向上心をくすぐるような仕掛け・工夫を感じることができました。体調が良くないなか、素敵な授業をありがとうございました🐼



RS
みつけた!

本日の
キーワード

照応解決
(ANA)

代名詞が何を指しているかを正しく認識する力

☞指示代名詞が指すもの、省略された主語や目的語を把握できるか?
(これ、それ、あれ、どれ、それら、これら、そのように、このように等)

英語の代名詞指導は、読解力における重要な要素である照応解決スキルの向上に不可欠な要素です。

英語の代名詞指導と照応解決(RS)の関係

照応解決は読解力の基盤: 読者は、テキスト内で指示対象を正確に追跡し、話題の一貫性を維持することによって、書かれた情報をより正確に理解できるようになります。これは読解スキルの中核的な部分と見なされています。

指導の必要性: 日本語は文脈から主語などが省略されることが多い言語(ゼロ照応言語)であるのに対し、英語は通常、代名詞が明示的に使用されます。この言語間の違いにより、日本人英語学習者にとって代名詞の指す内容を正確に把握することは難しい場合があります。明示的な代名詞指導は、このギャップを埋めるのに役立ちます。

具体的な指導例: 代名詞 it のような、具体的な対象を指す照応的な用法と、「It is important to study」のような非照応的な(pleonastic)用法を区別させる指導は、英文理解の解像度を高める効果があります。